こんなこと やってます（その17）

農業生産環境保全学プログラム

みなさん、こんにちは！　農学部の齋藤です。

地域創生科学研究科工農総合科学専攻農業生産環境保全学、私達のプログラム名になります。なんとも長く申し訳ございません。このプログラム、所属教員が24名、修士２年生39名、修士１年生20名と、農学部で最も大きい所帯になります。もちろん、このプログラムの教員の出身母体は、生物資源科学科、農業環境工学科、雑草と里山、附属農場・・・と多岐にわたります。守備範囲も、植物、動物、昆虫、雑草、環境、機械、エネルギー、食品と多岐にわたり、言語やツールも様々な状態です。と言いますと、バラバラ？無秩序？などと思われるかもしれませんが、意外とまとまっているのです。ある意味、背景が様々であると、お互いに尊敬と敬意の念に溢れ、皆わきまえながら（？）行動しているような気が致します。

学生さんの、修士号の取得までには、研究指導計画、研究経過報告、１年時の中間発表、２年時の修論発表会、修士論文の提出と学位審査をクリアすることが求められます。もちろん、授業でも地域創生リテラシーから６単位以上・専門科目から24単位以上等のクラスワークも求められ、学生さんも中々忙しい毎日になります。さらに、就職戦線も売り手市場とはいえ、１年時のインターンシップなどによる青田買いも幅を占め、修士課程入学後、早々に将来の事も考え準備を進めることが、望む進路を手に入れるための近道になります。諸先輩方が修士課程に在学されていらしたころは、きっともっと、おおらかに、時にとことん指導教員や仲間と語り合い、お互いが生に擦れ合いながら、研究・学生生活を謳歌されていたのかもしれません。どちらが良いのか、答え探しは簡単ではありません。

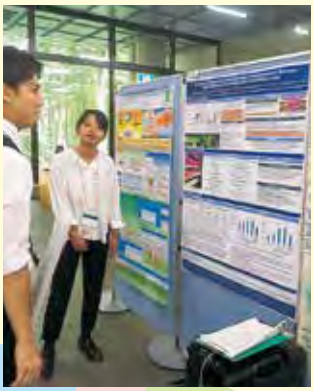
今のこの時代、スマホ１台で全世界と繋がれます。世界でおきている生の情報に出会えます。しかし、ネット上での日本語での情報は全体のわずか４％程度、55％は英語です（2023）。

コロナ明けのこの頃。世界とのチャンネルを広げ、リアルに世界に羽ばたき、若いうちに世界を旅して、多様性を肌で感じ取ってもらいたいと思い、「海外に行こう！観光旅行からで大丈夫」といつも院生に言っている私です。是非、諸先輩方からも、現役の教職員や学生への多方面からの支援や激励、宜しくお願い致します。

（文責：農業生産環境保全学プログラム長　齋藤　高弘）

留学生も頑張っています
（修士論文中間発表会：2022，12）

無事終わりました！
（修士論文中間発表会：2022，12）



学会にて英語でポスター

ファイリング用中心点

峰ヶ丘会報　第161号　令和５年８月10日発行　編集人　常任理事会　発行人　宇田　靖
発行所　宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会　〒321－8505 宇都宮市峰町350
TEL･FAX 028 (649) 5400　e-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp
郵便振替 00330－0－357　宇都宮大学農学部峰ヶ丘同窓会
印刷所　株式会社 井上総合印刷　TEL 028－661－4723